

事務局だより

第7回

「みえの農村風景」写真コンテスト受賞作品

みえの農村にスポットをあてた写真を募集して、農業・農村に対する関心を高めていただき、さらに広報冊子、その他の広報資料にこの写真を活用する事を目的とした写真コンテストを実施した。69点の力作が寄せられ、平成23年2月2日に6名の審査委員により厳正な審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞4点、伊勢新聞社賞1点が選ばれた。

最優秀賞



「たのしい代掻き」(明和町) 松本富美子

泥にまみれながら仲良く手をつなぎ楽しく駆け回る子どもたち、恐る恐る足を踏み出す子どもたち…色々な表情が見て取れて風景のある写真にびつたり秀作である。

優秀賞



「収穫の頃」(熊野市) 鈴木丈夫

強烈に目に飛び込んでくる収穫の秋にふさわしい黄金色に輝く稲。子どもからお年寄りまで力を合わせてその稲を刈り取ったり、結わえたりして人びとの動きが生き生きと伝わってくる見事な作品である。



「三多気の田植え」(津市) 織田揮準

田植えをする男性を眼下に見下ろすような大自然の壮大さ、後方にかすむ山々と手前の力強い木々の鮮やかな緑も表現の豊かさにひと味もふた味もよい着色をしているようで奥深い作品に仕上がっている。

特別賞



「丸山千枚田」(熊野市) 杉田 勝

木々の緑とそれを包むような夕霧の雰囲気良く表現されており、農村ののどかさが出ている。また、作品全体に静寂さとのんびりした時間を感じさせ、作者の芸術性の高さが表れている作品である。

「車田稲刈り」(多気町)

澤田静子

収穫を迎えた稲の色彩感が良く出ており、その稲を刈り取る人びとの精が伝わってくる一枚になっている。稲刈りをする人の表情がもう少しはっきりと写るとさらに良かったと思う。



「さつま芋ほり」(玉城町) 西 保

「見て、採れたよー」と言わんばかりに掘ったさつま芋を自慢しながら喜ぶ子どもの姿がほほ笑ましい作品である。背景の山なみ、空の切り取り方、すべての構図を考えながら撮影されているので全体的に好感を覚える仕上がりになっている。

「稲刈りツアーに参加して…」(亀山市) 酒井房子

撮影者は父親であろうか。家族の屈託のない笑顔に撮影者の嬉しそうな表情まで伝わってくる一枚。稲穂を抱え、何かを興味深そうに眺める親子の温かさと稲刈りを通じて得た家族の絆にほのぼのと安らぎを与えてくれる作品である。



伊勢新聞社賞



「ゲーム機なくても遊べます」(桑名市) 石川清和

携帯電話やゲーム機など次世代製品に目を奪われがちな現代の子どもたちに、自然との共生、人びとの暮らしの中で不可欠な水の尊さ、川遊びをしながらそこに溶け込む子どもたちの無邪気さが何か大切なものを教えてくれる、そんな作品に仕上がっている。